

技術英語

第 8 回

Results の書き方

細川 敬祐

講義の流れ

第01回: ガイダンス

第02回: 技術者・研究者としての英語,
英語論文の構成, Title の書き方

第03回: Abstract の執筆

第04回: 第 3 回の課題に関する講評

第05回: Introduction および Method の執筆 (1)

第06回: Introduction および Method の執筆 (2)

第07回: 第 6 回, 第 7 回の課題に関する講評

第08回: Results, Discussion, References の執筆 (1)

第09回: Results, Discussion, References の執筆 (2)

第10回: 第 8 回, 第 9 回の課題に関する講評

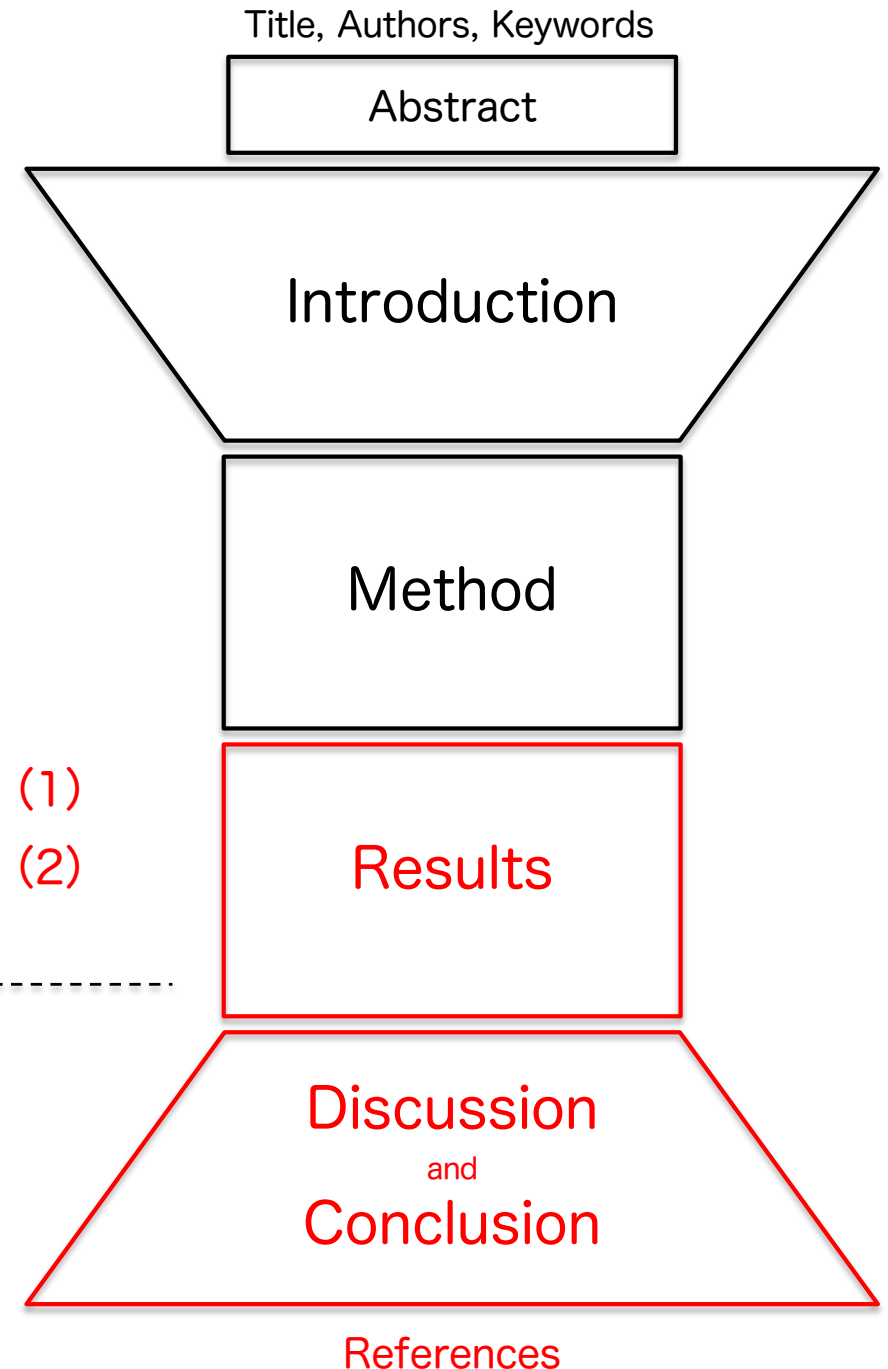
第11回: プレゼンテーション・スライド作成指導

第12回: プレゼンテーション・スライド作成演習

第13回: 作成スライドに関するフィードバック

第14回: オーラルプレゼンテーション指導

第15回: オーラルプレゼンテーション演習



今日の授業

- 論文の構成の復習
 - いわゆる IMRAD (アイエムラッド) について
 - 特に論文の後半部分 (Results + D & C) の構成
- Results には “何を” “どのように” 書けば良いのか?
 - “何を” 書くべきか?
 - 良い Results の 3 原則
 - Work A: 母語で Results の設計図を書いてみる
 - “どのように” 書くべきか?
 - Results do NOT speak for themselves!
 - Work B: 英語で Results を書いてみる

論文の構成の復習

- 典型的な論文の構成:

いわゆる IMRAD (アイエムラッドと読むみたいです)

I : Introduction - 問題意識提示

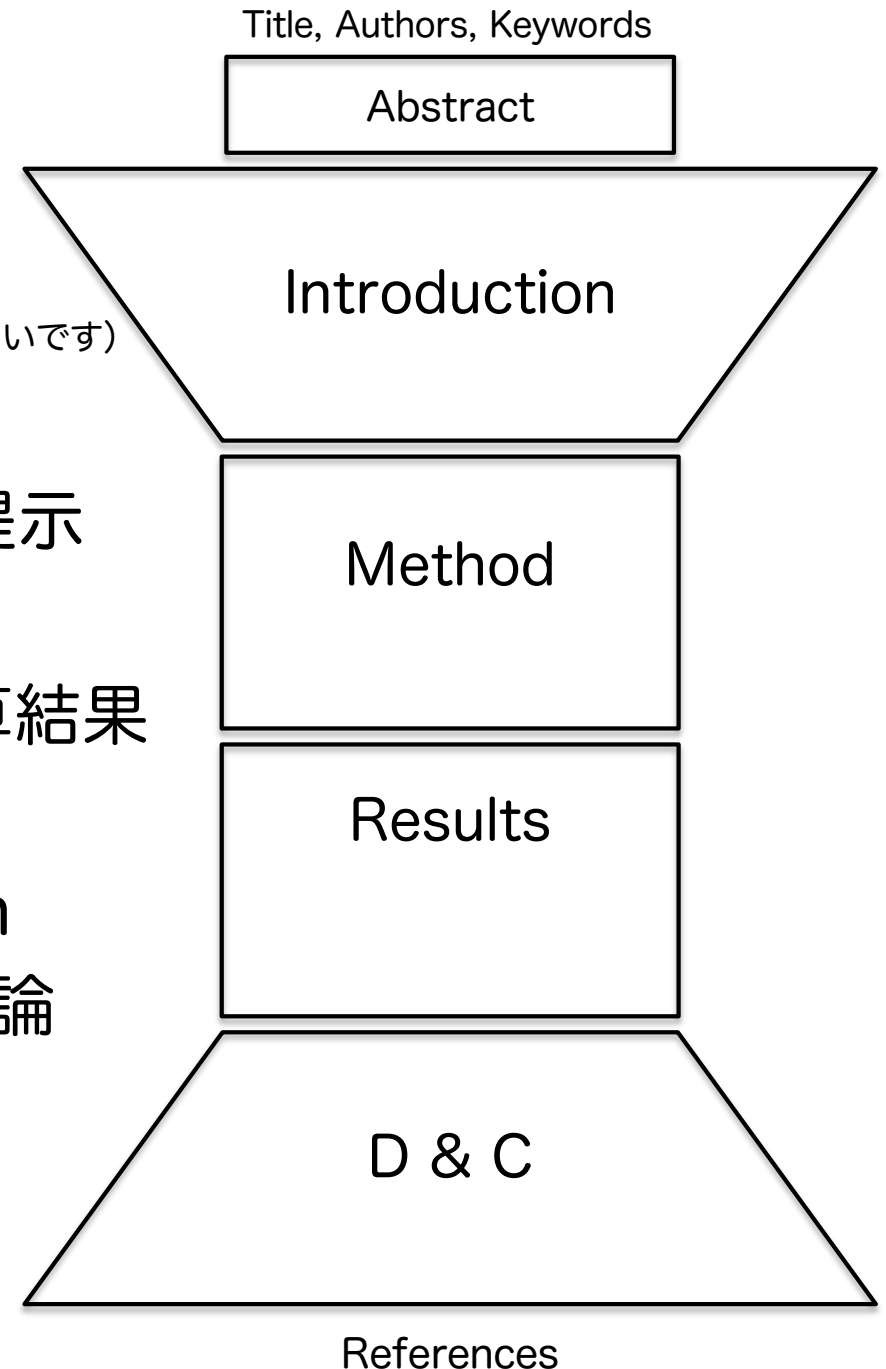
M : Method - 手法説明

R : Results - 実験, 観測, 計算結果

A : And

D : Discussion & Conclusion

- 結果の考察と結論



論文の構成の復習

- 典型的な論文の構成:

いわゆる IMRAD (アイエムラッドと読むみたいです)

I : Introduction - 問題意識提示

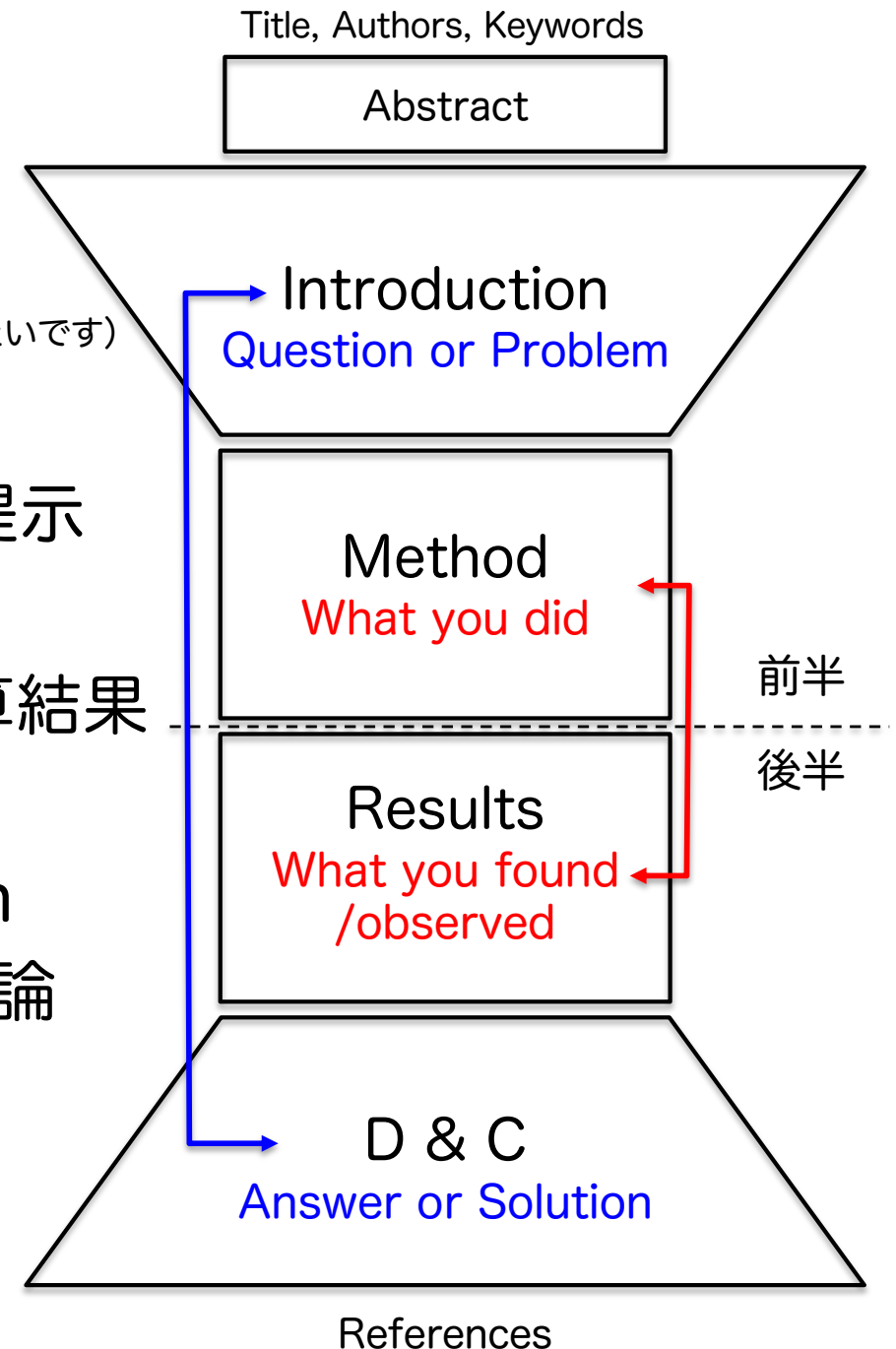
M : Method - 手法説明

R : Results - 実験, 観測, 計算結果

A : And

D : Discussion & Conclusion
- 結果の考察と結論

- IM と RAD は鏡の関係 (重要)



論文後半の構成のバリエーション

- 実際いろいろな構成のしかたがある.

| Option 1 | Option 2 | Option 3 | Option 4 |
|---------------|------------|------------------------|------------------------------|
| Results | Results | Results and Discussion | Results |
| Discussion | Discussion | | Discussion and Conclusion(s) |
| Conclusion(s) | | Conclusion(s) | |

- この授業では, 課題も含め Option 4 で進めていく.

今日の授業

- 論文の構成の復習について
 - いわゆる IMRAD (アイエムラッド)
 - 特に論文の後半部分 (Results + D & C) の構成
- Results には “何を” “どのように” 書けば良いのか?
 - 何を書くべきか?
 - 良い Results の 3 原則
 - Work A: 母国語で Results の設計図を書いてみる
 - どのように書くべきか?
 - Results do NOT speak for themselves!
 - Work B: 英語で Results を書いてみる

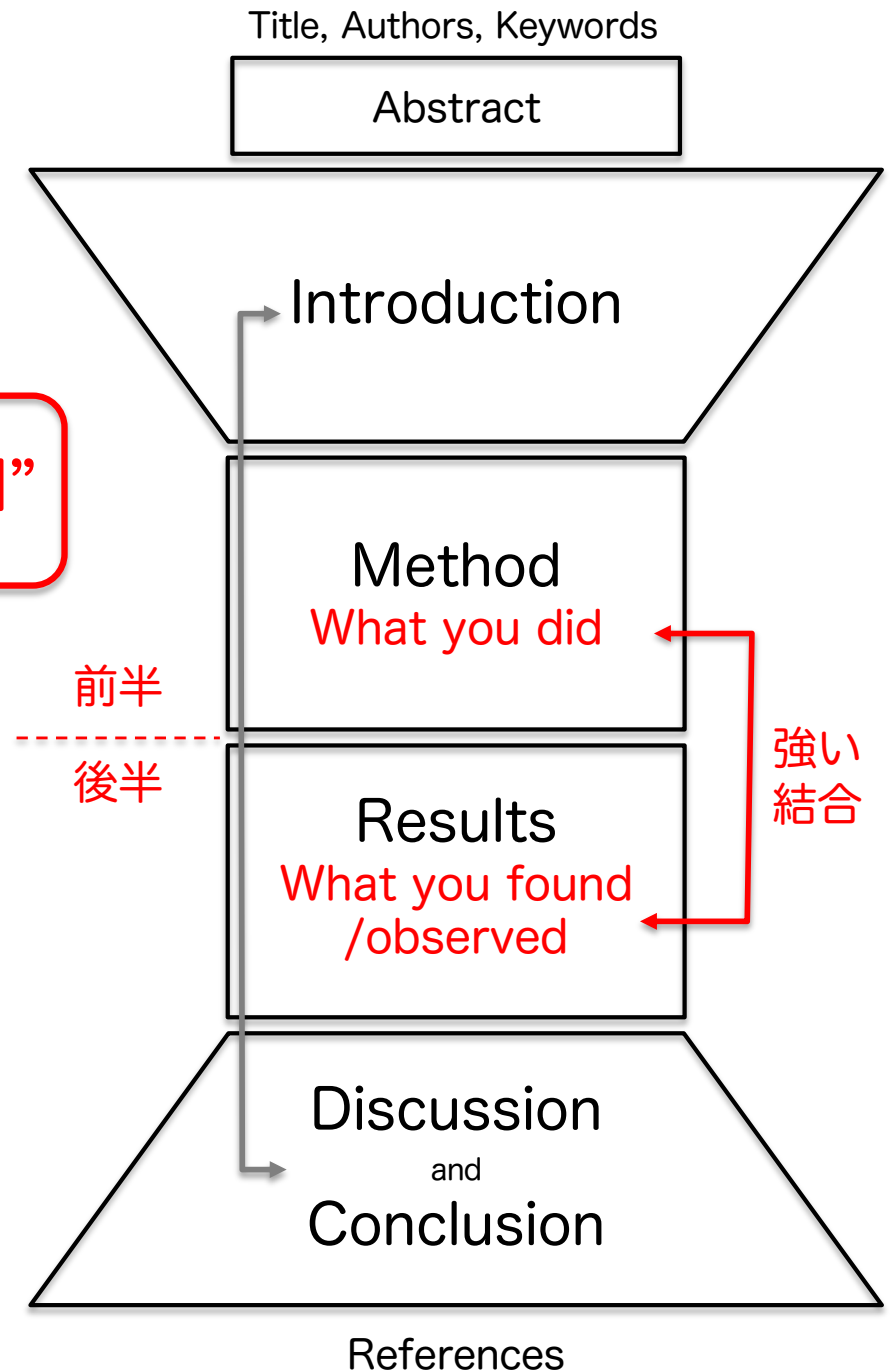
何を書くべきか？

- 非常にシンプル

“What you found/observed”

- 実験, 観測の結果
- シミュレーションの結果

- Method に対する, **明確で正確な** 答えである必要がある.



何を書くべきか？

- 非常にシンプル

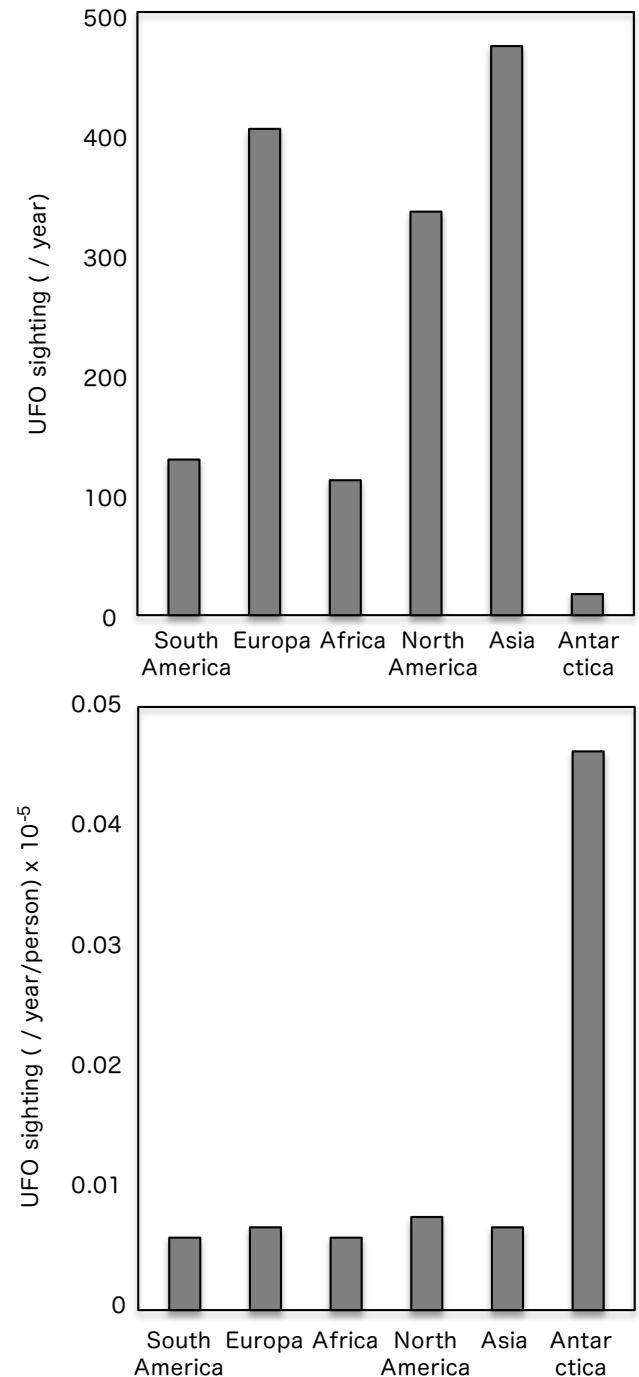
“What you found/observed”

- 実験, 観測の結果
- シミュレーションの結果

- Results には大抵図表が現れる.

誤解を恐れずに, 簡単に言ってしまえば...

→ 図表の説明を行うのが Results



良い Results の 3 原則

- 正確であること

- 最も大事, 絶対条件. しかし, あたりまえすぎて忘れがち.
- 図表が間違っていないか? - 後で訂正を出すのは恥ずかしい.
- 図の説明が間違っていないか? 特に数値, 単位などは大丈夫か?

- 簡潔であること

- 2 番目に大事.
- 論文の主張に対して直接貢献しないデータは使わない・見せない.
頑張って実験・観測したデータは全部見せたいのが人情.
しかし, 読者 (+ 査読者) にとっては“どーでもいい”こと.

- 定量的であること

- なるべくそうありたい... 頑張ってそうしていこう.
- 定量的であればあるほど, 引用される可能性が高くなる (重要)

今日の授業

- 論文の構成の復習について
 - いわゆる IMRAD (アイエムラッド)
 - 特に論文の後半部分 (Results + D & C) の構成
- Results には “何を” “どのように” 書けば良いのか?
 - 何を書くべきか?
 - 良い Results の 3 原則
 - Work A: 母国語で Results の設計図を書いてみる
 - どのように書くべきか?
 - Results do NOT speak for themselves!
 - Work B: 英語で Results を書いてみる

Work A – 15 ~ 20 min

- 卒論の“結果”にあたる部分で何を述べているのかを検討し、自分の母国語で Results の“設計図”を作る。
 1. Results で使用する図表を決定する。
 - 論文の主張を示すために必要不可欠なものを 2 つほど選定.
 2. 図表へ読者を“どう導き入れるか”を考える。
 - 論文でやっていることをさらりと述べて、図表への導入にする.
 - 図の全体的な説明を考える. あたりまえのことで構わない.
 3. 図表において“最も訴えたいこと”は何なのかを洗い出す。
 - ひとつの図表について 2 つ以内（できれば 1 つ）が望ましい.
 4. 図表で示した結果に対する“簡単なコメント”を考える。
 - 問題点, 先行研究との比較, モデルとの比較, 結果が示唆するもの.
 - あくまでざっくりとで構わない（深い考察は D & C で）

実演 – 架空の卒業研究

- あなたが“UFO は地球のどこに出現する頻度が高いのか”を卒業論文で調べたとして、その結果をどう書いていくか？
 1. Results で使用する図表を決定する。
 - 論文の主張を示すために必要不可欠なものを 2 つほど選定.
 2. 図表へ読者を“どう導き入れるか”を考える。
 - 論文でやっていることをさらりと述べて、図表への導入にする.
 - 図の全体的な説明を考える. あたりまえのことで構わない.
 3. 図表において“最も訴えたいこと”は何なのかを洗い出す。
 - ひとつの図表について 2 つ以内（できれば 1 つ）が望ましい.
 4. 図表で示した結果に対する“簡単なコメント”を考える。
 - 問題点, 先行研究との比較, モデルとの比較, 結果が示唆するもの.
 - あくまでざっくりとで構わない（深い考察は D & C で）

図の選択 – UFO の大陸別出現回数

図 1

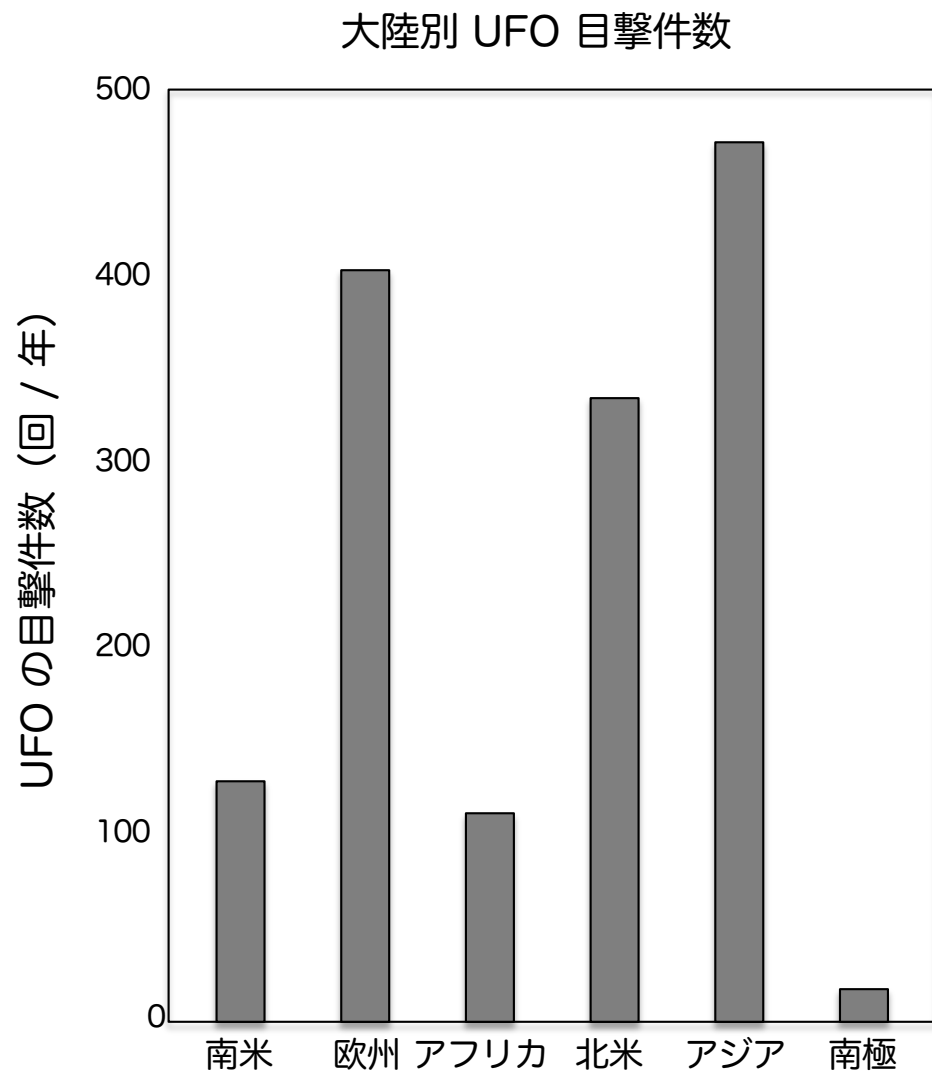
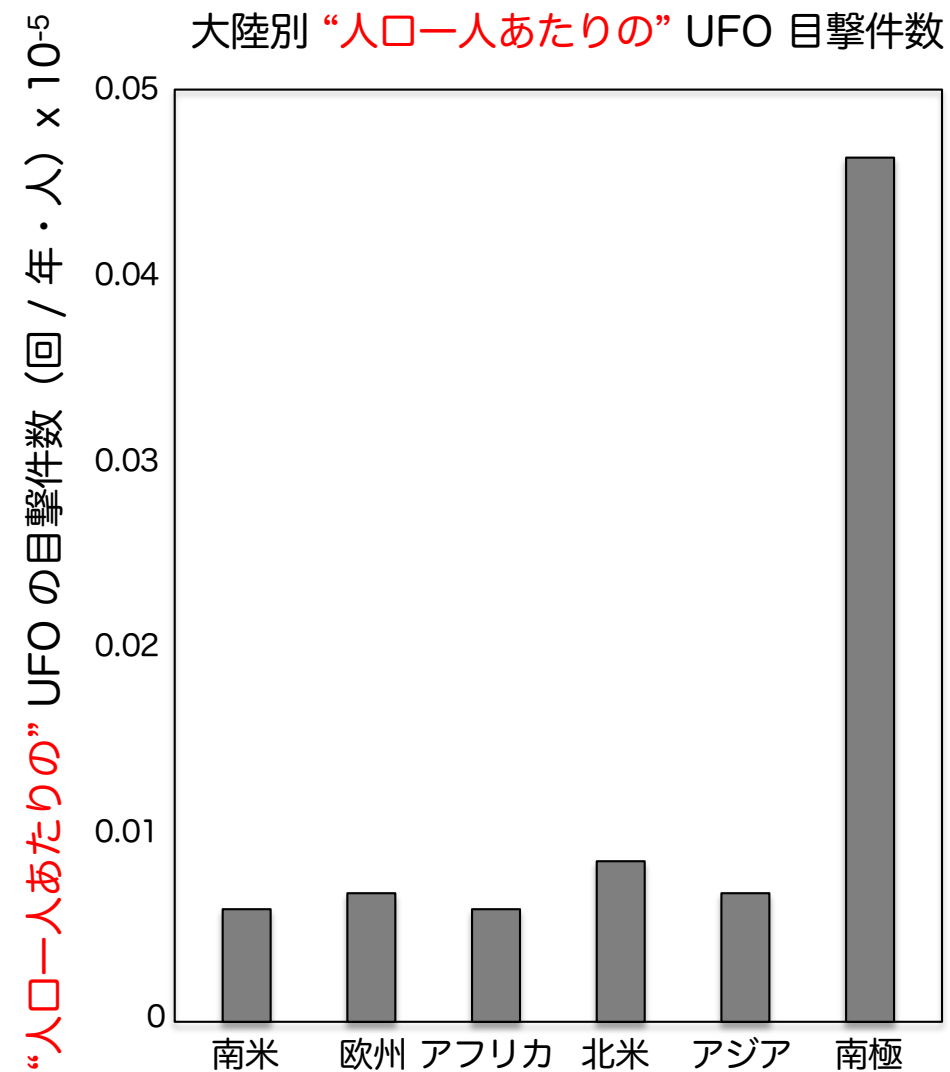


図 2



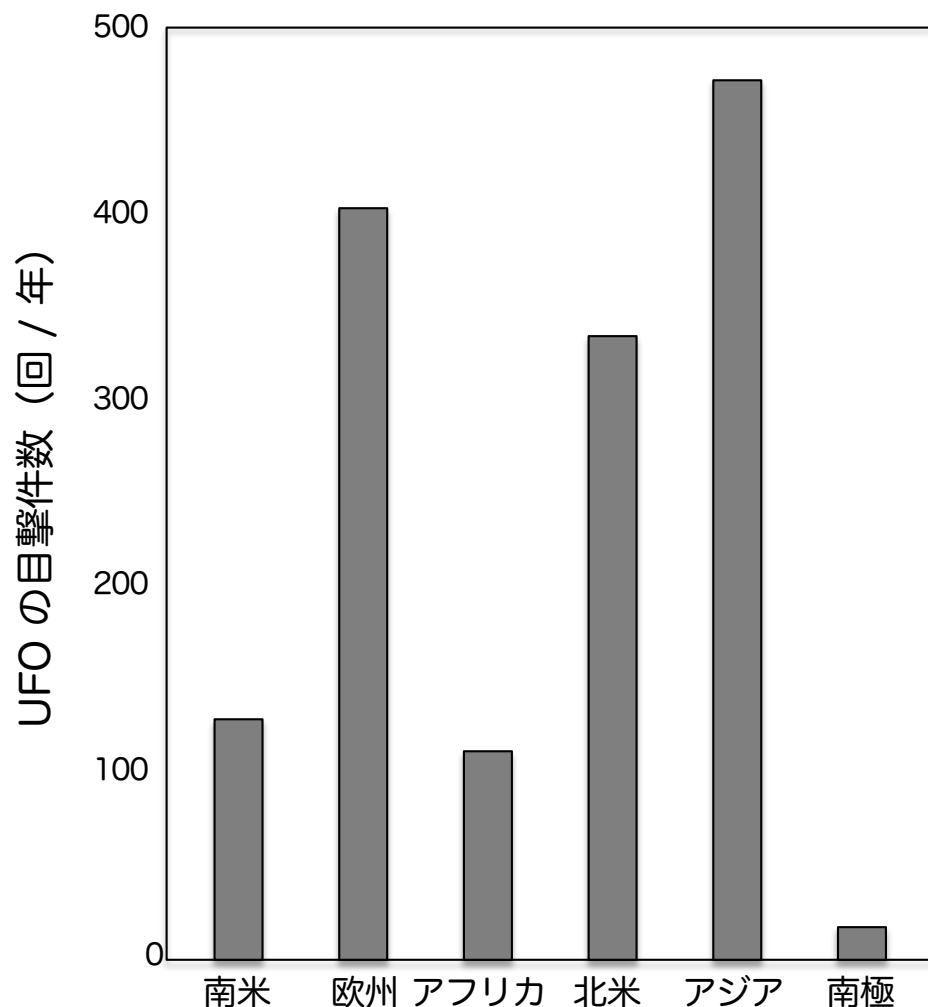
実演 – 架空の卒業研究

- あなたが“UFO は地球のどこに出現する頻度が高いのか”を卒業論文で調べたとして、その結果をどう書いていくか？
 1. Results で使用する図表を決定する。
 - 論文の主張を示すために必要不可欠なものを 2 つほど選定.
 2. 図表へ読者を“どう導き入れるか”を考える。
 - 論文でやっていることをさらりと述べて、図表への導入にする.
 - 図の全体的な説明を考える. あたりまえのことで構わない.
 3. 図表において“最も訴えたいこと”は何なのかを洗い出す。
 - ひとつの図表について 2 つ以内が望ましい.
 4. 図表で示した結果に対する“簡単なコメント”を考える。
 - 問題点, 先行研究との比較, モデルとの比較, 結果が示唆するもの.
 - あくまでざっくりとで構わない (深い考察は D & C で)

図 1 からやってみます

図 1

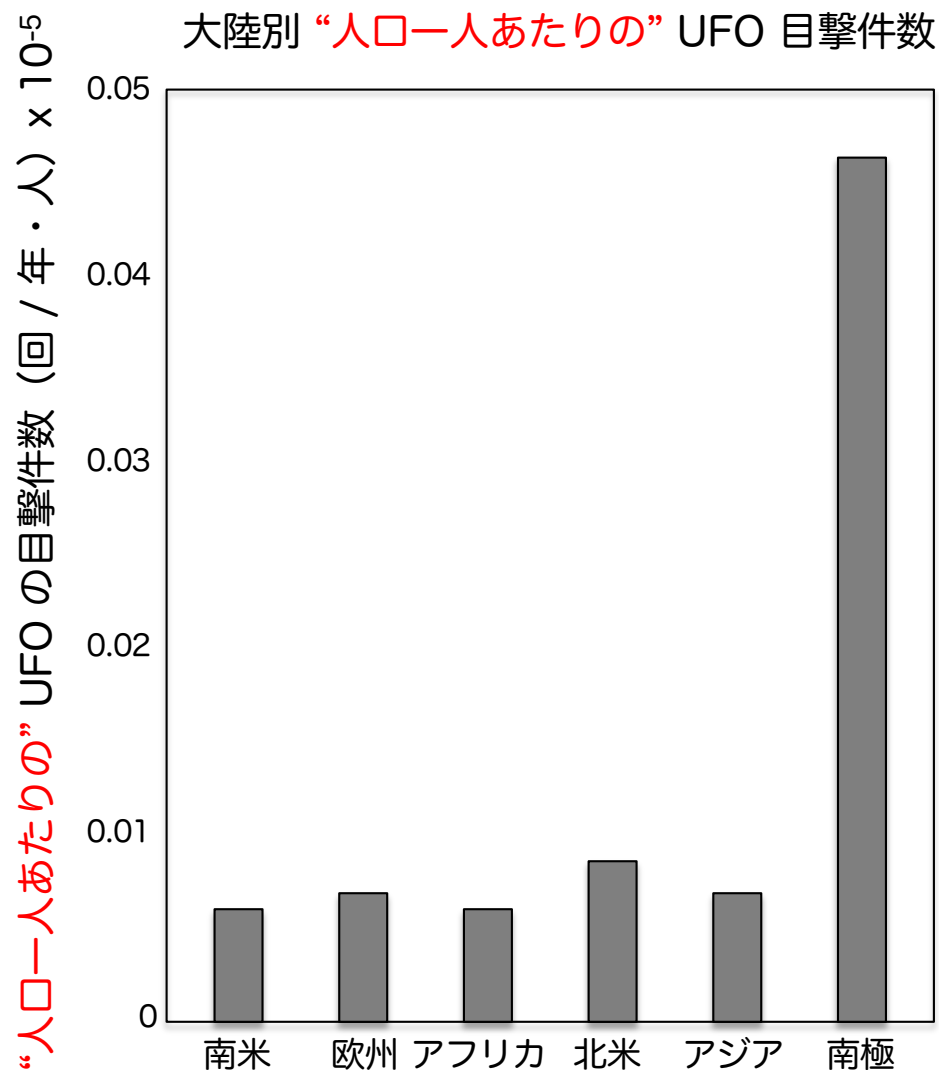
大陸別 UFO 目撃件数



- イントロで述べたように, UFO が地球のどの領域を侵略しようとしているかを把握することは地球防衛の観点から非常に重要.
- その目的のために, 本論文では UFO の目撃件数を大陸別に調査した.
- 図 1 に, 2011 年 1 年間の UFO 目撃件数を大陸別に調べた結果を示す.
- 目撃件数は大陸によって大きく異なる.
- 欧州, 北米, アジアでは目撃件数が非常に多く 300-500 回/年 程度. 南米, アフリカは少なく 100 回/年程度. 先行研究と調和的.
- 今回南極大陸で初の調査. 目撃件数は極端に少なく 20 回/年程度であることが分かった.
- **人口密集地域で目撃件数が多いという傾向.**
- 大陸によって人口が異なるため, 総目撃件数では UFO の出現頻度を正しく評価できない.
- 人口ひとりあたりの目撃回数を調べるべき.

次に、図 2 をやってみます

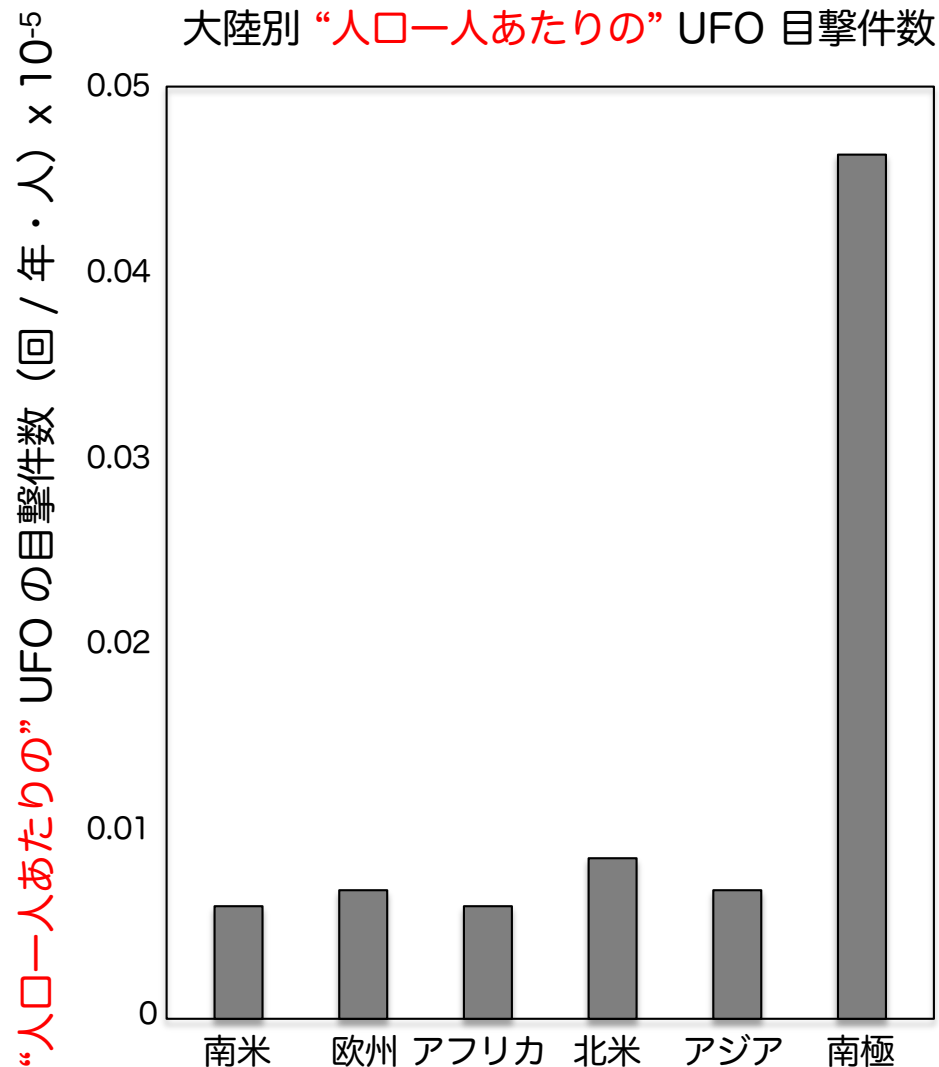
図 2



- 図 1 で示した目撃件数のデータを、各大陸の人口で割り、人口一人あたりの UFO 目撃件数を算出し、図 2 に示した。
- 南極以外の全ての大陸において、人口一人あたりの目撃件数は殆ど同じような値を取ることが分かった。値は 0.01×10^{-5} 回/年・人という非常に小さいものであった。
- 一方、南極では、人口一人あたりの目撃件数が 0.046×10^{-5} 回/年・人と非常に大きな値を取ることが分かった。
- これまで南極では UFO 調査が行われてこなかったため、このような顕著な傾向は把握されていなかった。
- 図 1 に示したように、南極での目撃件数は少ないが、図 2 に示した目撃頻度は他の大陸に比べ 7-9 倍大きく、この結果は有意である。
- UFO は南極上空に高い頻度で飛来する。

Results に書かなくて良いこと...

図 2



- UFO は南極を狙っている.
- これまでは UFO 調査は, ユーラシア大陸, 北米, 南米, アフリカに限られてきた. 本研究によって初めて南極を調査することで, UFO が狙っている領域を特定することができた.
- では, 何故 UFO が南極を狙っているのか?
 - 南極海に眠る天然資源が目的?
 - 人のいない南極大陸に前線基地を建設?
 - 涼しいところが好き?
- では, 今後, 地球防衛をどうしていくべきか?
 - 南極における UFO 監視システムの整備.
 - 南極のどの領域に最も UFO が飛来するのかを更に詳しく分析する必要がある.

このあたりのことは全て,
Discussion & Conclusion へ回すのが普通.

Work A – 15 ~ 20 min

- 卒論の“結果”にあたる部分で何を述べるのかを検討し、自分の母国語で“設計図”を作る。以下の 4 STEPS で。
 1. Results で使用する図表を決定する。
 - 論文の主張を示すために必要不可欠なものを 2 つほど選定。
 2. 図表へ読者を“どう導き入れるか”を考える。
 - 論文でやっていることをさらりと述べて、図表への導入にする。
 - 図の全体的な説明を考える。あたりまえのことで構わない。
 3. 図表において“最も訴えたいこと”は何なのかを洗い出す。
 - ひとつの図表について 2 つ以内（できれば 1 つ）望ましい。
 4. 図表で示した結果に対する“簡単なコメント”を考える。
 - 問題点, 先行研究との比較, モデルとの比較, 結果が示唆するもの。
 - あくまでざっくりとで構わない（深い考察は D & C で）

今日の授業

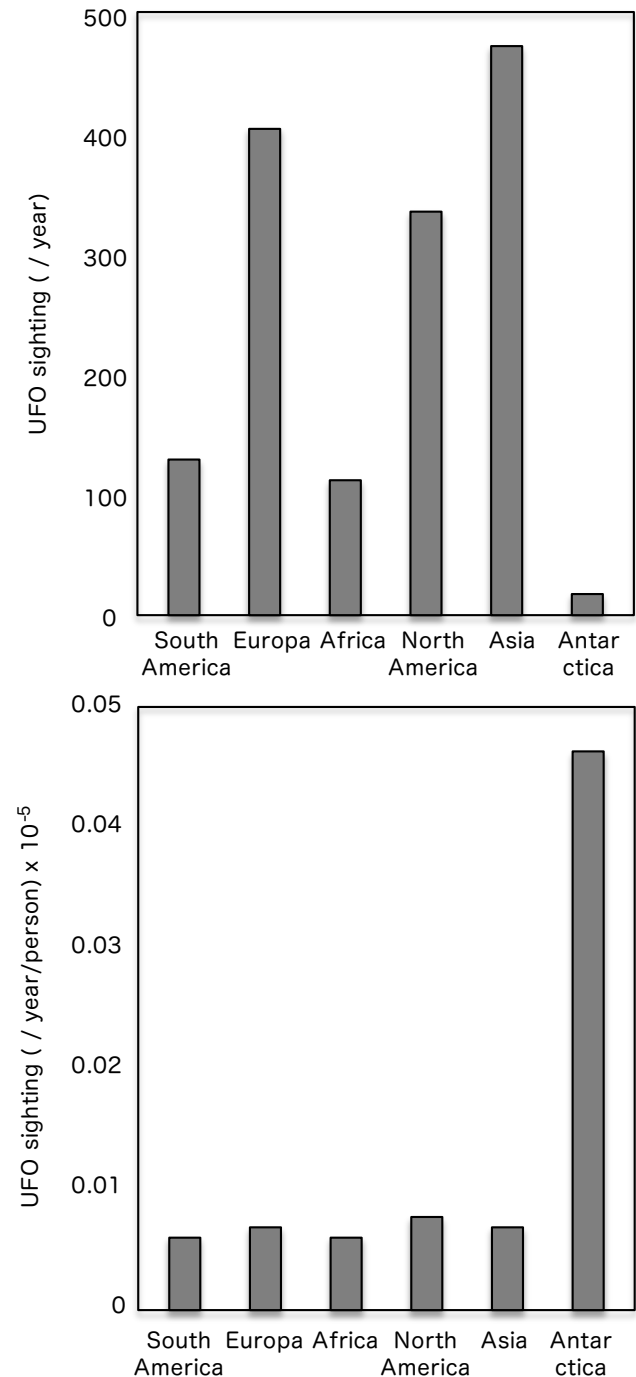
- 論文の構成の復習
 - いわゆる IMRAD (アイエムラッド)
 - 特に論文の後半部分 (Results + D & C) の構成
- Results には “何を” “どのように” 書けば良いのか?
 - 何を書くべきか?
 - 良い Results の 3 原則
 - Work A: 母国語で Results の設計図を書いてみる
 - どのように書くべきか? – より良い Results にするために
 - Results do NOT speak for themselves!
 - Work B: 英語で Results を書いてみる

どのように書くべきか？

- 図表を出すだけでは何故だめで、文章で“いちいち”説明してやる必要があるのか？
- その理由を考えることで、Results を どのように書くべきか が見える。



“かきっぷり”ということ



紹介したい友達がいるんだよね...



紹介したい友達がいるんだよね...



This guy gives a lot of money to poor people.

(この男は貧しい人に多額のお金を恵んでいます)

紹介したい友達がいるんだよね...



This guy spent 10 years in prison for **murder**.

(この男は殺人の罪で 10 年間服役していました)

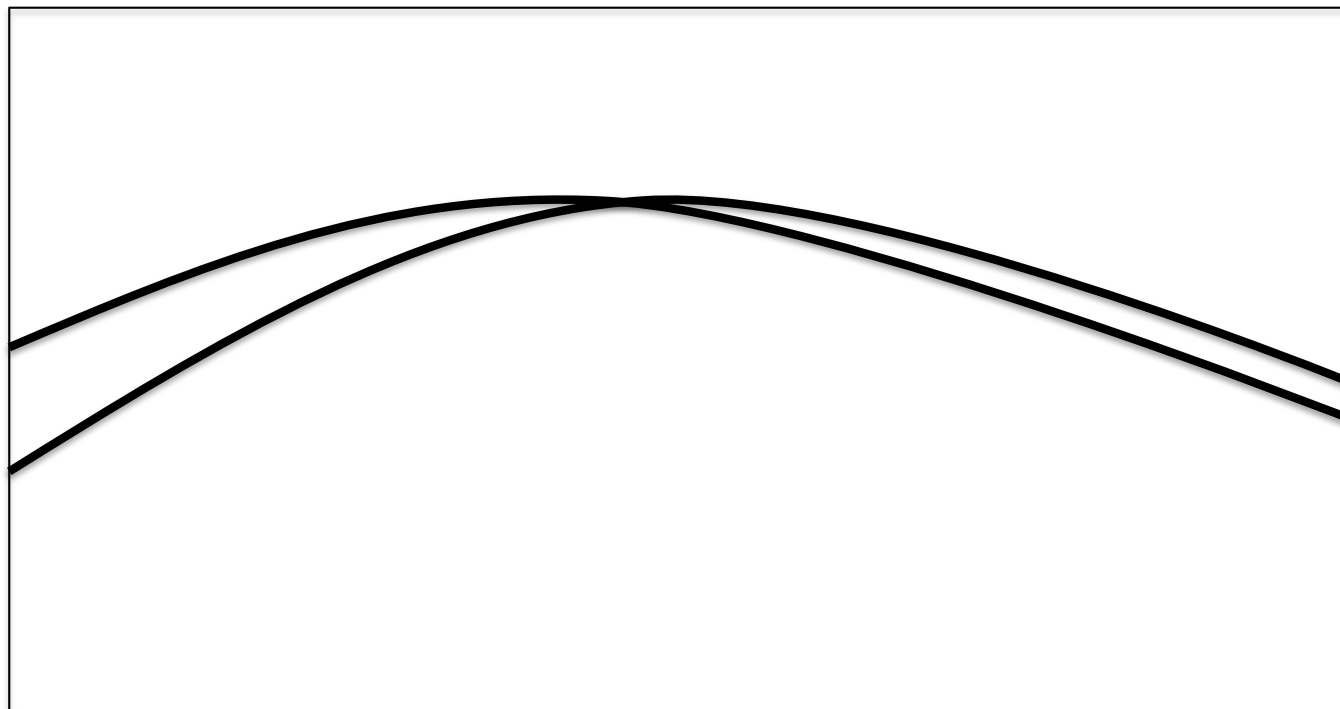
紹介したい友達がいるんだよね...



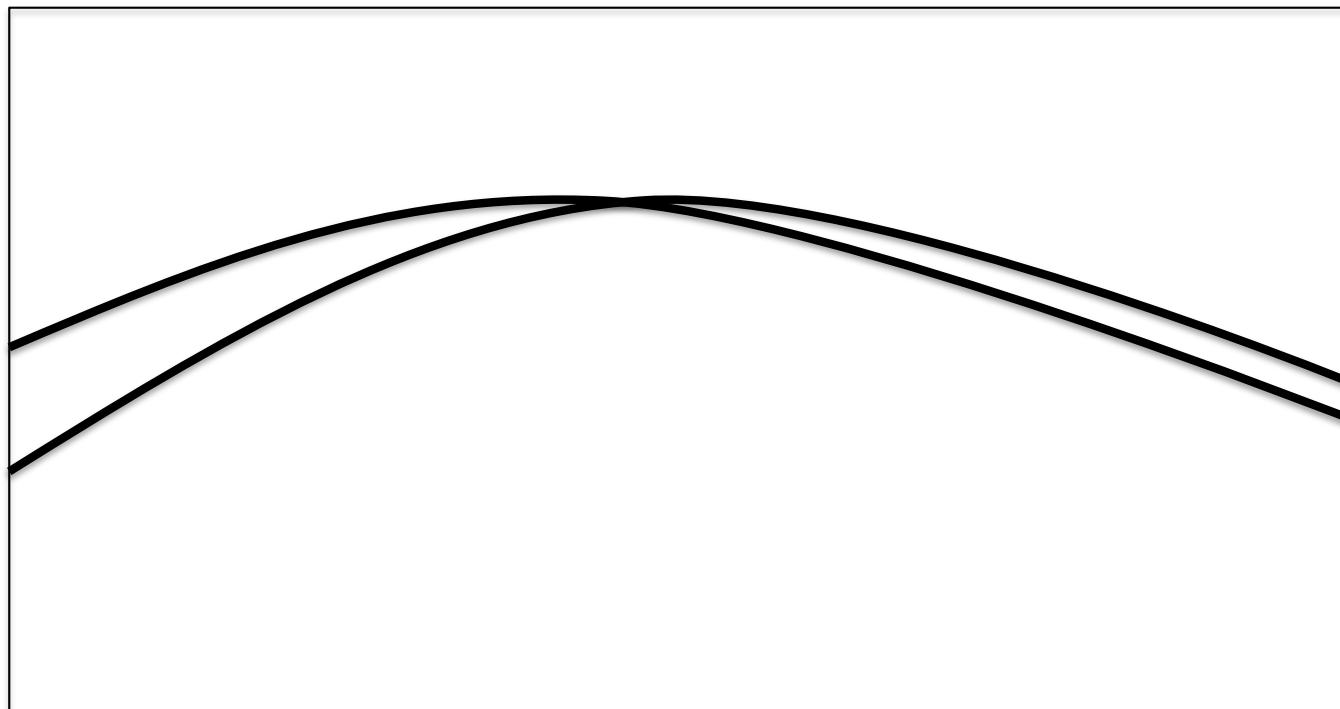
How does he look like?

(彼はどんな人に見えますか?)

図表を説明するのも同じこと

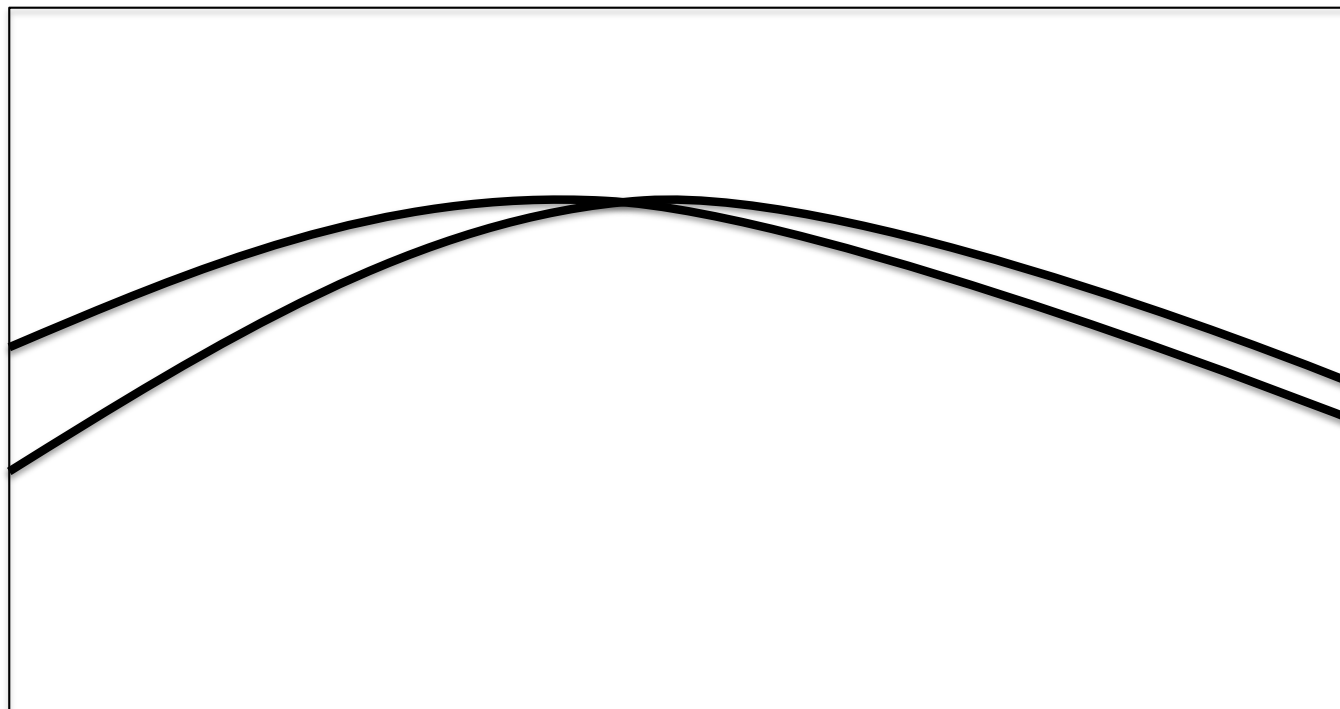


図表を説明するのも同じこと



The two curves are very **similar**.
(この 2 つのグラフは殆ど一致しています)

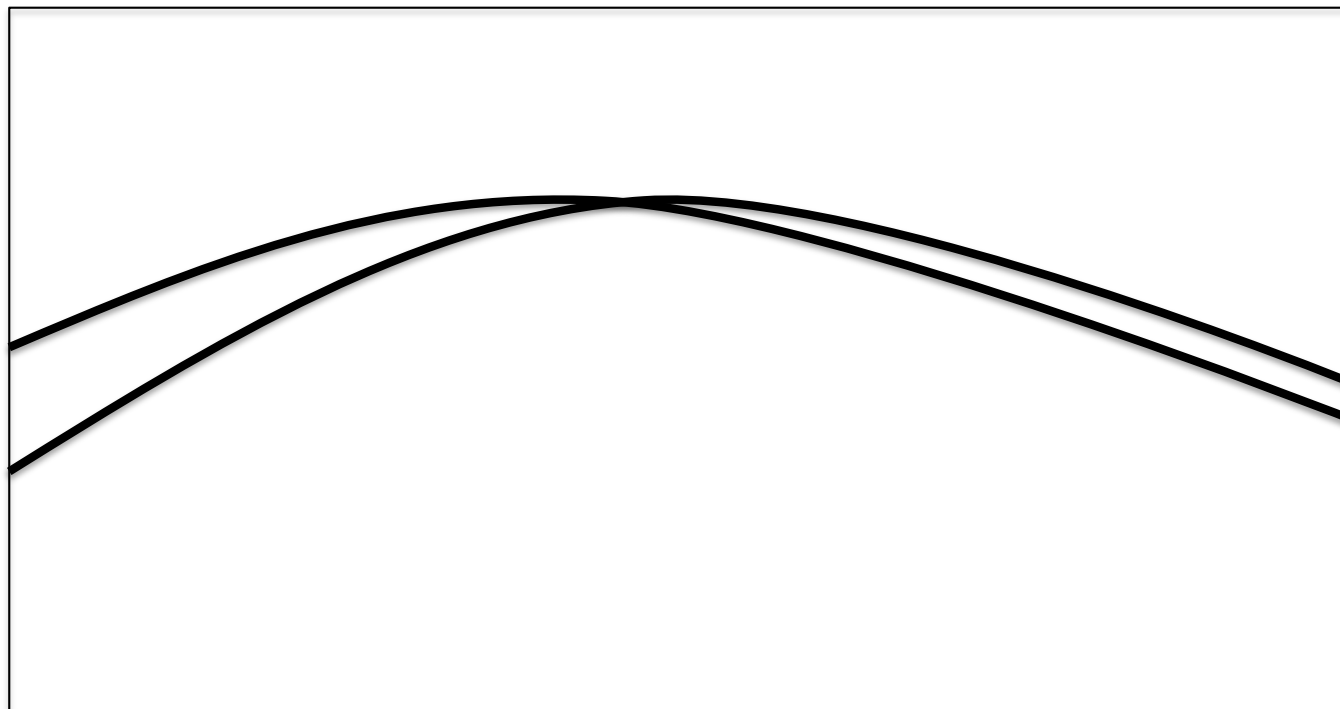
図表を説明するのも同じこと



The two curves are noticeably **different**.

(この 2 つのグラフは顕著に異なっています)

図表を説明するのも同じこと

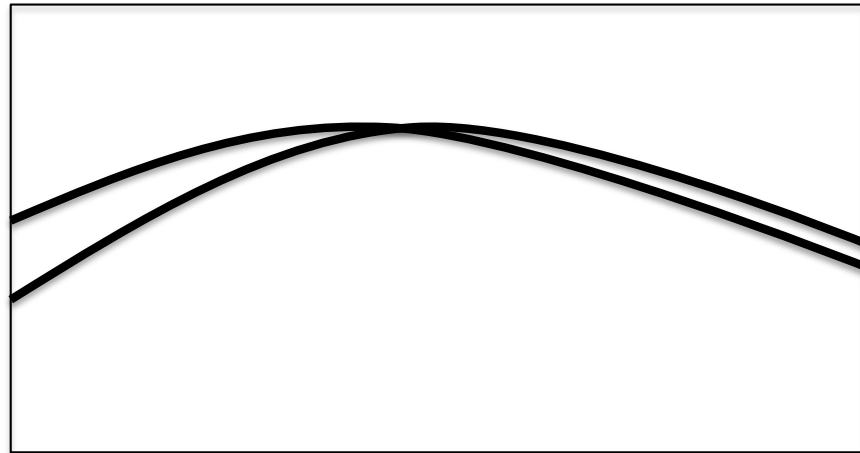


Similar or Different?

あなたにはどう見えますか？

Results do NOT speak for themselves!

- 図表に現れる数値が, 論文で主張したいことにどのように繋がるのかを明確に記述する → “論理の流れ” が生まれる.



- つまり“図表”もしくは“図表に現れる数値”に対する著者からのメッセージを含めてやることが重要.

もうちょっと具体的に...

- ある事象が 37 % の確率で発生したことを記述.
 - The effect occurred in 37% of cases.
37% という数値の価値に関して何の評価もしていない.
 - The effect occurred in **only** 37% of cases.
37% という確率は“少ない”と考える著者の主張をサポート.
 - The effect occurred in **as many as** 37% of cases.
37% という確率は“大きい”と考える著者の主張をサポート.

今日の授業

- 論文の構成の復習
 - いわゆる IMRAD (アイエムラッド)
 - 特に論文の後半部分 (Results + D & C) の構成
- Results には “何を” “どのように” 書けば良いのか?
 - 何を書くべきか?
 - 良い Results の 3 原則
 - Work A: 母国語で Results の設計図を書いてみる
 - どのように書くべきか?
 - Results do NOT speak for themselves!
 - Work B: 英語で Results を書いてみる

実演 – UFO の出現に関する研究

- UFO 論文について, 設計図を元に英語を書いたらどうなる?
 1. 設計図の英訳である必要はない. 設計図はあくまで設計図.
 2. 文章にある程度の論理的な流れがあるかが最も重要なポイント.
数値は定量的か? 数値は“語って”いるか?
 3. 英語が正しいかどうかには現時点でこだわる必要はない.
最初から良い英文なんて書ける訳がない.
 4. 自分の研究に関連する論文から表現を盗むのは良い方法.
 - 例えば, 図を説明する際に表現に困ったら,
似たような図が載っている論文の表現を参照.
 - ピックアップした表現をノートにまとめておくと, あとで楽.
 - 間違っても内容を盗まないこと (それは盗作!)

図 1 からやってみます

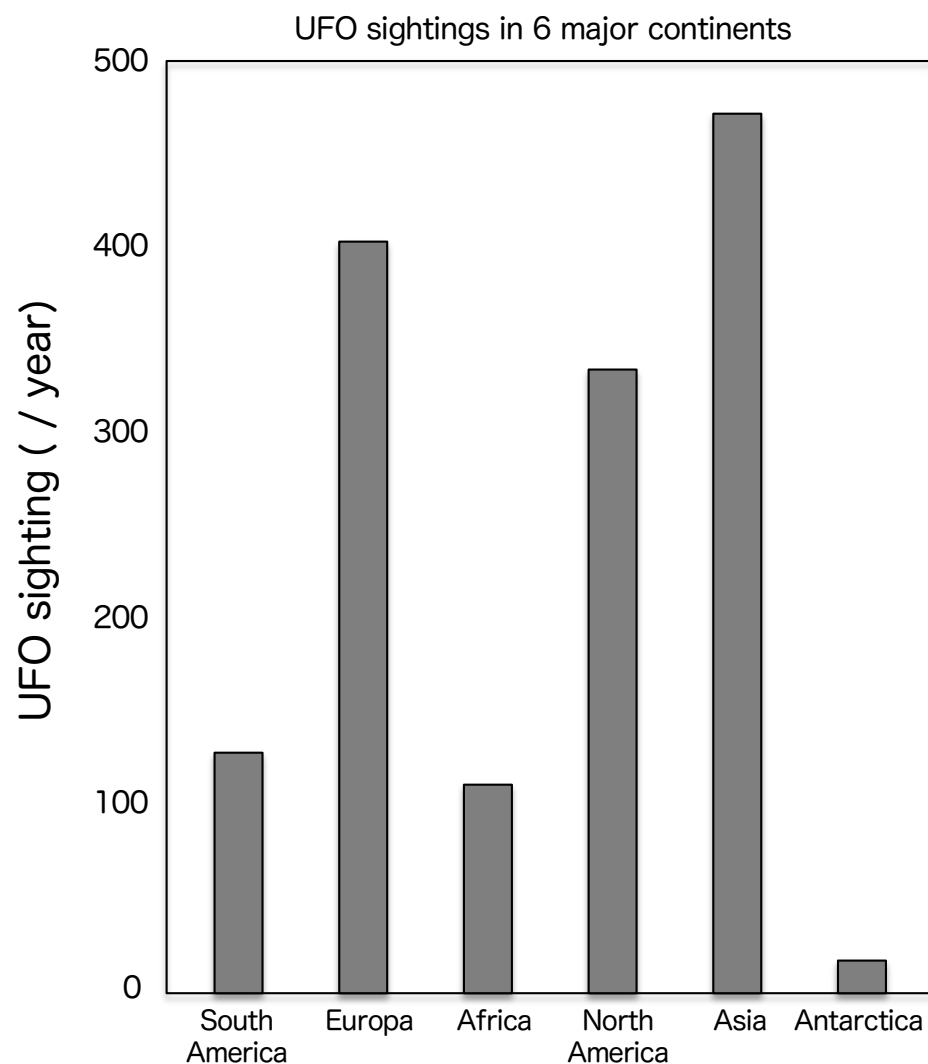


Figure 1: UFO sightings in 2011 in 6 major continents

- イントロで述べたように, UFO が地球のどの領域を侵略しようとしているかを把握することは地球防衛の観点から非常に重要.
- その目的のために, 本論文では UFO の目撃件数を大陸別に調査した.
- 図 1 に, 2011 年 1 年間の UFO 目撃件数を大陸別に調べた結果を示す.
- 目撃件数は大陸によって大きく異なる.
- 欧州, 北米, アジアでは目撃件数が非常に多く 300-500 回/年 程度. 南米, アフリカは少なく 100 回/年程度. 先行研究と調和的.
- 今回南極大陸で初の調査. 目撃件数は極端に少なく 20 回/年程度であることが分かった.
- 人口密集地域で目撃件数が多いという傾向.
- 大陸によって人口が異なるため, 総目撃件数では UFO の出現頻度を正しく評価できない.
- 人口ひとりあたりの目撃回数を調べるべき.

図 1 からやってみます

In terms of the defense of the Earth, it is important to know which part of this planet UFOs are most interested in. For this purpose, we investigated the UFO sightings in the 6 major continents for 2011 and the results are summarized in Figure 1. The number of the UFO sightings varied with continents. The number was larger ~300-400 times/year in Europa, North America and Asia, and relatively smaller ~100 times/year in South America and Africa. These values were consistent with the previous studies of UFO appearance in these continents. This study investigated the UFO sighting in Antarctica for the first time, which demonstrated that the number of sighting was extremely rare about 20 times/year in Antarctica. The results indicated that the UFO sightings were much more frequent in densely populated regions. Due to the large difference in population between the continents, it was rather difficult to estimate the actual frequency of UFO appearance from the total number of sighting data. Thus, for better discussing the regional variation of the UFO appearance, it is highly desirable to derive the number of UFO sightings per person per year.

- イントロで述べたように, UFO が地球のどの領域を侵略しようとしているかを把握することは地球防衛の観点から非常に重要.
- その目的のために, 本論文では UFO の目撃件数を大陸別に調査した.
- 図 1 に, 2011 年 1 年間の UFO 目撃件数を大陸別に調べた結果を示す.
- 目撃件数は大陸によって大きく異なる.
- 欧州, 北米, アジアでは目撃件数が非常に多く 300-500 回/年 程度. 南米, アフリカは少なく 100 回/年程度. 先行研究と調和的.
- 今回南極大陸で初の調査. 目撃件数は極端に少なく 20 回/年程度であることが分かった.
- 人口密集地域で目撃件数が多いという傾向.
- 大陸によって人口が異なるため, 総目撃件数では UFO の出現頻度を正しく評価できない.
- 人口ひとりあたりの目撃回数を調べるべき.

キーポイントの確認

In terms of the defense of the Earth, it is important to know which part of this planet UFOs are most interested in. For this purpose, we investigated the UFO sightings in the 6 major continents for 2011 and the results are summarized in Figure 1. The number of the UFO sightings varied with continents. The number was larger ~300-400 times/year in Europa, North America and Asia, and relatively smaller ~100 times/year in South America and Africa. These values were consistent with the previous studies of UFO appearance in these continents. This study investigated the UFO sighting in Antarctica for the first time, which demonstrated that the number of sighting was extremely rare about 20 times/year in Antarctica. The results indicated that the UFO sightings were much more frequent in densely populated regions. Due to the large difference in population between the continents, it was rather difficult to estimate the actual frequency of UFO appearance from the total number of sighting data. Thus, for better discussing the regional variation of the UFO appearance, it is highly desirable to derive the number of UFO sightings per person per year.

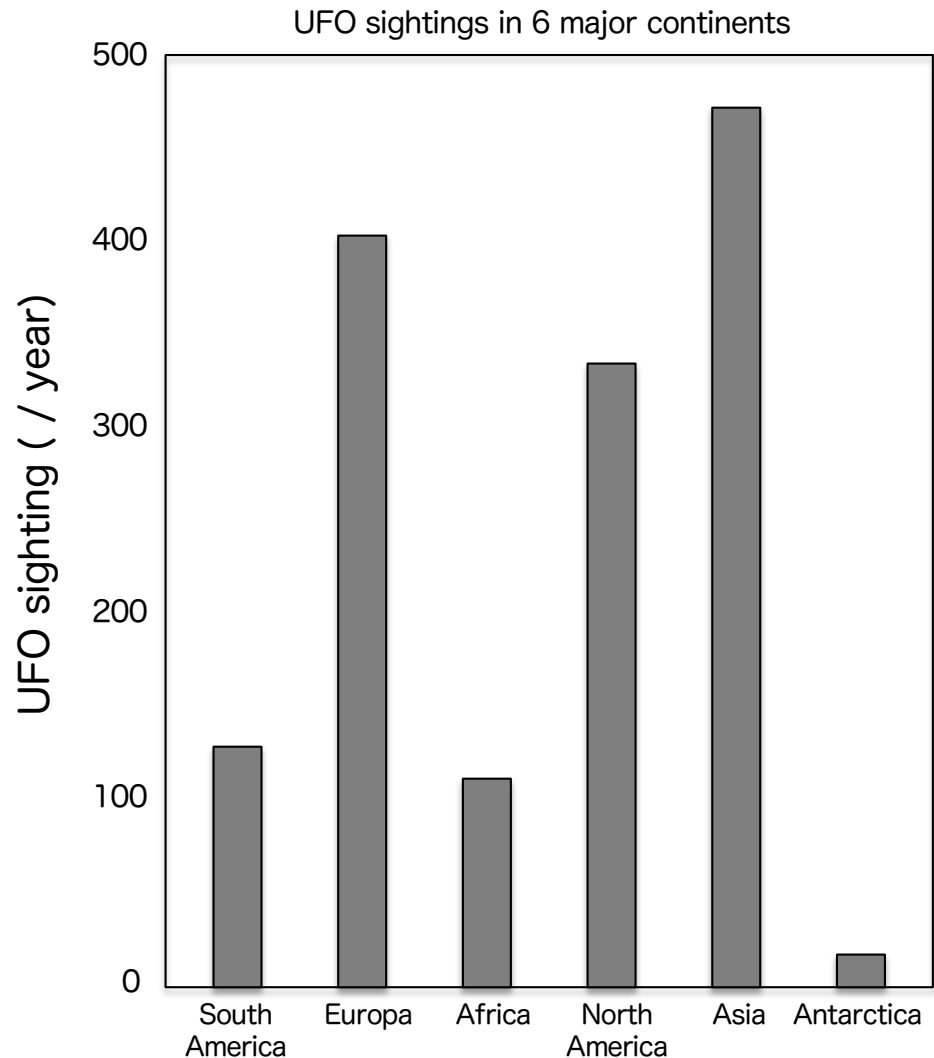


Figure 1: UFO sightings in 2011 in 6 major continents

次に、図 2 をやってみます

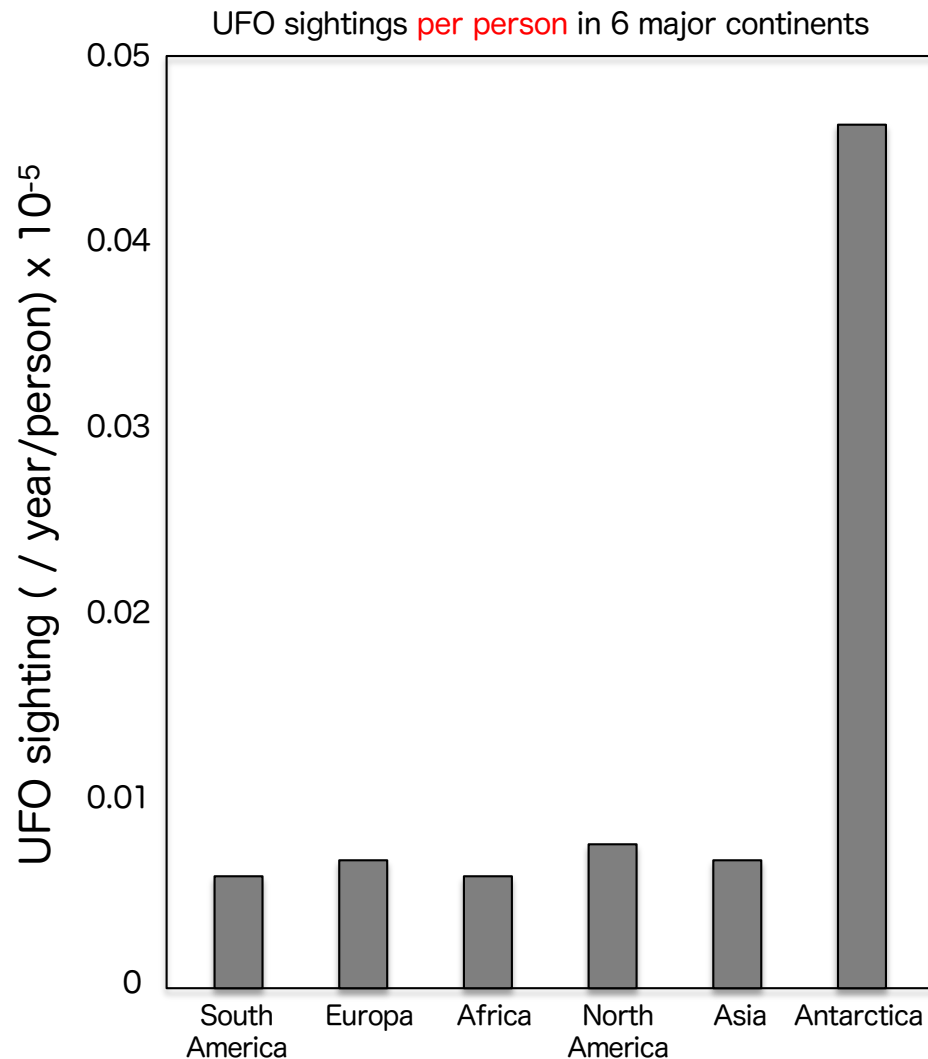


Figure 2: UFO sightings per person in 2011

- 図 1 で示した目撃件数のデータを、各大陸の人口で割り、人口一人あたりの UFO 目撃件数を算出し、図 2 に示した。
- 南極以外の全ての大陸において、人口一人あたりの目撃件数は殆ど同じような値を取ることが分かった。値は 0.01×10^{-5} 回/年・人という非常に小さいものであった。
- 一方、南極では、人口一人あたりの目撃件数が 0.046×10^{-5} 回/年・人と非常に大きな値を取ることが分かった。
- これまで南極では UFO 調査が行われてこなかったため、このような顕著な傾向は把握されていなかった。
- 図 1 に示したように、南極での目撃件数は少ないが、図 2 に示した目撃頻度は他の大陸に比べ 7-9 倍大きく、この結果は有意である。
- UFO は南極上空に高い頻度で飛来する。

次に, 図 2 をやってみます

Figure 2 shows the number of the UFO sightings per year per person which were derived by dividing the data in Figure 1 by the population in each continent. Except for Antarctica, the number of UFO sightings per year per person were almost similar $\sim 0.01 \times 10^{-5}$ times/year/person, which was extremely small. In contrast, the number was very large $\sim 0.046 \times 10^{-5}$ times/year/person in Antarctica, which was 7-9 times larger than that in other continents. Such an extremely frequent UFO appearance has not been reported in the past literature because of the lack of UFO survey in Antarctic continents. Although the total number of UFO sightings in Antarctica was rather small, there existed a significant difference between the occurrence of UFO sightings in Antarctica and that in other continents. The current investigation suggested that UFOs appear over the Antarctic continents more frequently.

- 図 1 で示した目撃件数のデータを, 各大陸の人口で割り, 人口一人あたりの UFO 目撃件数を算出し, 図 2 に示した.
- 南極以外の全ての大陸において, 人口一人あたりの目撃件数は殆ど同じような値を取ることが分かった. 値は 0.01×10^{-5} 回/年・人という非常に小さいものであった.
- 一方, 南極では, 人口一人あたりの目撃件数が 0.046×10^{-5} 回/年・人と非常に大きな値を取ることが分かった.
- これまで南極では UFO 調査が行われてこなかったため, このような顕著な傾向は把握されていなかった.
- 図 1 に示したように, 南極での目撃件数は少ないが, 図 2 に示した目撃頻度は他の大陸に比べ 7-9 倍大きく, この結果は有意である.
- UFO は南極上空に高い頻度で飛来する.

キーポイントの確認

Figure 2 shows the number of the UFO sightings per year per person which were derived by dividing the data in Figure 1 by the population in each continent. Except for Antarctica, the number of UFO sightings per year per person were almost similar $\sim 0.01 \times 10^{-5}$ times/year/person, which was extremely small. In contrast, the number was very large $\sim 0.046 \times 10^{-5}$ times/year/person in Antarctica, which was 7-9 times larger than that in other continents. Such an extremely frequent UFO appearance has not been reported in the past literature because of the lack of UFO survey in Antarctic continents. Although the total number of UFO sightings in Antarctica was rather small, there existed a significant difference between the occurrence of UFO sightings in Antarctica and that in other continents. The current investigation suggested that UFOs appear over the Antarctic continents more frequently.

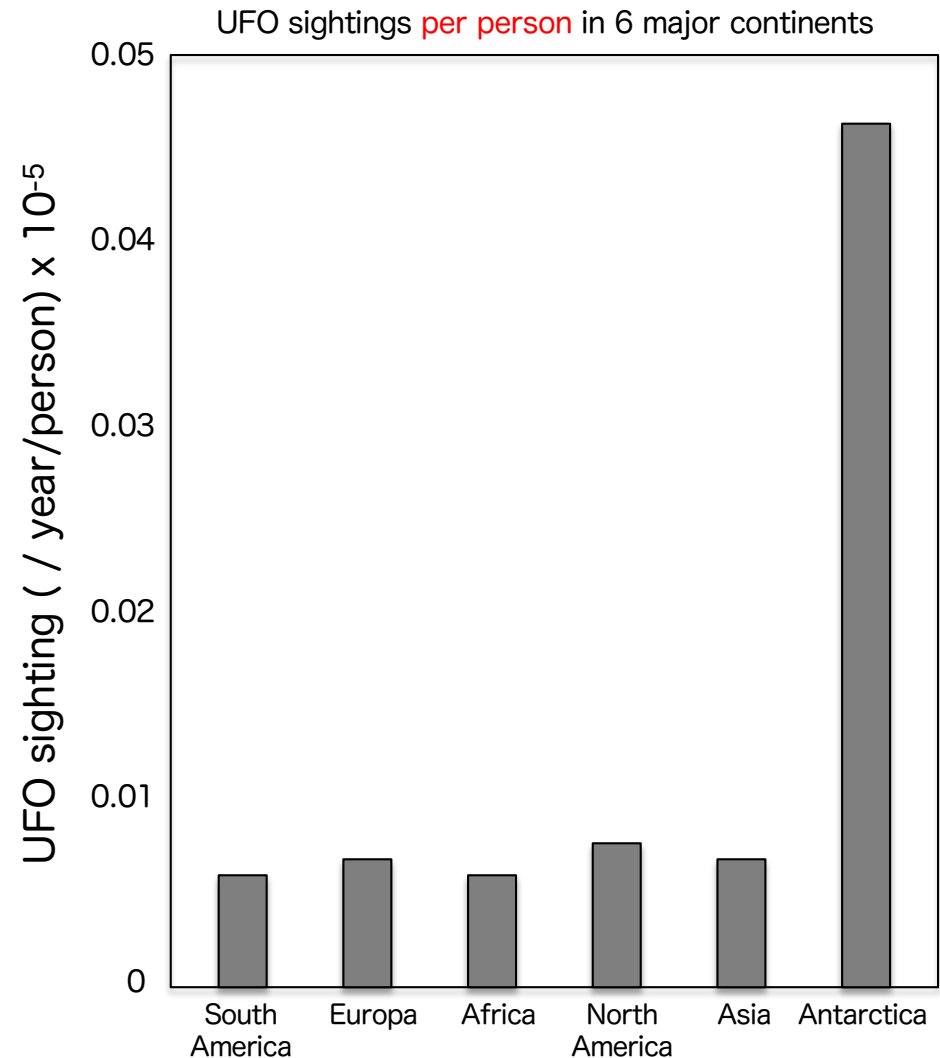


Figure 2: UFO sightings per person in 2011

時制 (Tense) に関してチェック

In terms of the defense of the Earth, it **is** important to know which part of this planet UFOs are most interested in. For this purpose, we **investigated** the UFO sightings in the 6 major continents for 2011 and the results **are** summarized in Figure 1. The number of the UFO sightings **varied** with continents. The number **was** larger ~300-400 times/year in Europa, North America and Asia, and relatively smaller ~100 times/year in South America and Africa. These values **were** consistent with the previous studies of UFO appearance in these continents. This study **investigated** the UFO sighting in Antarctica for the first time, which **demonstrated** that the number of sighting **was** extremely rare about 20 times/year in Antarctica. The results **indicated** that the UFO sightings **were** much more frequent in densely populated regions. Due to the large difference in population between the continents, it **was** rather difficult to estimate the actual frequency of UFO appearance from the total number of sighting data. Thus, for better discussing the regional variation of the UFO appearance, it **is** highly desirable to derive the number of UFO sightings per person per year.

Abstract: 内容に応じ` て使い分ける.

Introduction:

過去の研究については過去形か現在完了形. 現在の問題点やこの研究で行うことについては現在形.

Materials and Methods:

過去形

Results:

基本的には過去形.

但し, 文中の図や表の表記に関することは現在形.

Discussion & Conclusion:

得られた成果については過去形.

得られた成果から導き出された解釈や結論については現在形.

時制 (Tense) に関してチェック

Figure 2 **shows** the number of the UFO sightings per year per person which **were** derived by dividing the data in Figure 1 by the population in each continent. Except for Antarctica, the number of UFO sightings per year per person **were** almost similar $\sim 0.01 \times 10^{-5}$ times/year/person, which **was** extremely small. In contrast, the number **was** very large $\sim 0.046 \times 10^{-5}$ times/year/person in Antarctica, which **was** 7-9 times larger than that in other continents. Such an extremely frequent UFO appearance **has not been** reported in the past literature because of the lack of UFO survey in Antarctic continents. Although the total number of UFO sightings in Antarctica **was** rather small, there **existed** a significant difference between the occurrence of UFO sightings in Antarctica and that in other continents. The current investigation **suggested** that UFOs **appear** over the Antarctic continents more frequently.

Abstract: 内容に応じ` て使い分ける.

Introduction:

過去の研究については過去形か現在完了形. 現在の問題点やこの研究で行うことについては現在形.

Materials and Methods:

過去形

Results:

基本的には過去形.

但し, 文中の図や表の表記に関することは現在形.

Discussion & Conclusion:

得られた成果については過去形.

得られた成果から導き出された解釈や結論については現在形.

冠詞に関してチェック

In terms of **the** defense of the Earth, it is important to know which part of this planet UFOs are most interested in. For this purpose, we investigated **the** UFO sightings in **the** 6 major continents for 2011 and **the** results are summarized in Figure 1. **The** number of the UFO sightings varied with continents. **The** number was larger $\sim 300\text{--}400$ times/year in Europa, North America and Asia, and relatively smaller ~ 100 times/year in South America and Africa. These values were consistent with **the** previous studies of UFO appearance in these continents. This study investigated **the** UFO sighting in Antarctica for **the** first time, which demonstrated that **the** number of sighting was extremely rare about 20 times/year in Antarctica. The results indicated that **the** UFO sightings were much more frequent in densely populated regions. Due to **the** large difference in population between **the** continents, it was rather difficult to estimate **the** actual frequency of UFO appearance from **the** total number of sighting data. Thus, for better discussing **the** regional variation of the UFO appearance, it is highly desirable to derive **the** number of UFO sightings per person per year.

Figure 2 shows **the** number of the UFO sightings per year per person which were derived by dividing **the** data in Figure 1 by **the** population in each continent. Except for Antarctica, **the** number of UFO sightings per year per person were almost similar $\sim 0.01 \times 10^{-5}$ times/year/person, which was extremely small. In contrast, **the** number was very large $\sim 0.046 \times 10^{-5}$ times/year/person in Antarctica, which was 7-9 times larger than that in other continents. Such **an** extremely frequent UFO appearance has not been reported in **the** past literature because of **the** lack of UFO survey in Antarctic continents. Although **the** total number of UFO sightings in Antarctica was rather small, there existed **a** significant difference between **the** occurrence of UFO sightings in Antarctica and that in other continents. **The** current investigation suggested that UFOs appear over **the** Antarctic continents more frequently.

100% 合っているかは自信なし。
ただ、85% くらいは自信あり。

Work B – 授業の終わりまで + 課題

- 母国語で作った“設計図”に基づいて英語で Results を書く.
 1. 設計図の英訳である必要はない. 設計図はあくまで設計図.
 2. 文章にある程度の論理的な流れがあるかが最も重要なポイント.
数値は定量的か? 数値は“語って”いるか?
 3. 英語が正しいかどうかには現時点でこだわる必要はない.
最初から良い英文なんて書ける訳がない.
 4. 自分の研究に関連する論文から表現を盗むのは良い方法.
 - 例えば, 図を説明する際に表現に困ったら,
似たような図が載っている論文の表現を参照.
 - ピックアップした表現をノートにまとめておくと, あとで楽.
 - 間違っても内容を盗まないこと (それは盗作!)